

所弓便

第16号

NPO 法人 所沢市弓道連盟

会員 251名

橋田榮次先生を悼む

草賀 淳

2015年5月24日、埼玉県弓道連盟顧問、所沢市弓道連盟名誉会長、範士八段橋田榮次先生には102歳の天寿を全うされ、永眠されました。

先生は、大正2年5月4日のお生まれで、13歳で旧制中学入学と同時に弓道を始められ、以来90年の長きにわたりこの道の修養に努められ、昭和36年には教士、39年に七段、51年には八段、そして、平成2年には範士と昇段、昇格を重ねられました。

その間、昭和35年には全日本選手権大会出場、その後、選手権には計10回出場されました。その上さらに、昭和40年には埼玉県弓道連盟副会長、国体強化委員長として、国体で総合優勝を飾るなど、輝かしい実績を重ねられました。

その後、昭和62年5月からは、4年間にわたり第6代所沢市弓道連盟会長を務められました。退任後も名誉会長として武道館弓道場の開設にも尽力され、その後はほとんど毎日のように、歩いて道場へ通われ、会員の指導に当たって来られました。

所沢市弓道連盟会員中、唯一の範士、最高の輝かしい弓暦の持ち主であられた先生、会員にとって偉大な指導者、大きな目標であった先生が亡くなられ、悲しみとともにその痛手は計り知れません。

先生が会長の時代から、会員数300名、称号者30名を、目指そうとされておられた目標は既に達成されました。しかし、先生の言われる、「弓道本来の成果x弓道人口が最高になる」ことになっているか、弓道の最終目標は「人づくり」にあるとする先生の意に沿うものであるかどうかは些か気になるところです。

先生との個人的な、最初の思い出は、昭和55～56年ごろ、福原範士の主宰される泉州会にお供して、紹介していただいたこと、この時、橋田先生作の小生初めての4つ躰の使い初めで、そのことを説明されておられる先生の姿が印象に残っています。その後、年1回所弓連での福原先生の講習会にも参加させて貰えるようにもなりました。懐かしくも嬉しい思い出でもあります。

先生の「弓は修養道である」という信念は、白寿を過ぎてなお、自ら弓を引くことにも意欲を示され、肩を故障して、右手で弓を引くことが難しくなると、左引きに挑戦され、躰も左引き用のものを自ら作られて、巻藁の稽古を重ねて、遂に、的前でも引かれるようになっておられました。その姿はまさに、修養道を実践される先生の姿勢そのもので、本当に涙の出る思いで拝見しておりました。

その上100歳を迎えてなお、自ら歩いて10分以上かかる自宅と道場の間を往復して、殆ど毎日のように指導に来られました。

時折、反発する不肖の弟子ではありましたが、先生無くして、今日の自分はなかったと、心から感謝しています。先生は弓道人としてはもちろんのこと、人生の師としても我々の範であり、「弓道を通じて、腹式呼吸を学び、長生きできた」という、先生に少しでも近づけるよう努力したいと思っています。

これからは先生が心配されていた、この連盟の将来を見据えて、後進の育成、道場の運営など、いくつかの課題を的確に進めていくことが大切なことと思っています。

どうぞお見守り下さい。ご冥福をお祈り致します。有り難うございました。 合掌

∞ 各部報告 ∞

《《 情報をお寄せください 》》

NPO 法人所沢市弓道連盟

理事一同

新弓道場の建設に付き、諸事情等ご理解を賜り有難うございます。

現在、市有地を弓道場建設用地として活用させていただくべく当局にその可能性を打診しておりますが、今のところ具体的な進展は有りません。

この際、会員皆さんから、より良い建設場所等の耳寄り情報をお寄せ頂きたく、ここにお願い致します。ご自身、ご親戚、取引銀行等の情報等、どの様なことでも結構ですので、理事までご一報下さい。

【総務部】

会員数

11月30日現在の会員数は251名です。

新会員

27年4月以降に入会された会員の皆さんです。

奈須祥生 伊藤 愛 前澤朋子 中村 拓
 新田真由美 瀬戸菜央 沖田純子 佐藤孝範
 川口沙央梨 長谷川千恵 佐野俊弘 田中恵美子
 清水公子 石川美恵 谷本光次郎 黒須美帆
 永松千穂 湯浅妃美子 筒井さくら 大山孝夫
 宇都宮裕 池上恵莉 田中明子 神山茉夏
 早川重朗 西山史一 上田ゆかり 高目秀樹

昇格・昇段

平成27年5月1日以降27年10月末までに昇格・昇段された皆さんです。

六段 熊井紀一
 五段 小林孝則 川端由美子
 四段 小島理恵
 三段 中根幸二 吉田幸子 安立倫生 宮嶋重明
 二段 池内健治 新井寛子 坂川隆人 森下珠美

長谷部元美 細川和子

初段 石塚正徳 小寺加代 奈須祥生 山下恵美

半田惣一郎 石毛克恵 宮本幸世 奥村宏美

石川 舞 今井千鶴 青山恭子 近藤麻美

轟 俊生 新井夏織

総会・理事会・常任委員会・部長会

6月14日

第1回NPO理事会 兼 部長会

・熊野神社道場建て替え関係

会長及び理事から神社道場の建て替えについては、地主（神社氏子会）との調整が極めて難しいことの状況説明があった。（議事録道場内掲示）

7月12日

第1回常任委員会（旧理事会）

（参加26名 ワブサーバー9名）

・道場の建て替えに関する件

（会長挨拶（抄））

弓道連盟は自力で熊野神社道場の建替を推進していたが、神社氏子会は土地を市にでなければ貸さないとの結論を出した。このため熊野神社敷地内での道場建て替えが出来なくなった。

今後の展望は、現状では未だ具体的にはなっていないが、所沢市にも敷地探しの協力を依頼して将来的に新道場建設を目指す方針に変わりはない。（議事録道場内掲示）

8月16日

第2回部長会

・大会、射会関係

百射会 12月27日

初射会 1月16日

・初心者教室講習会

第2回初心者教室

10月24日～12月5日

水曜講習

8月26日再開（第4水曜日 10:00から）

土曜講習（橋田教室は終了）

9月12日再開（第2土曜日 10:00から）

第48回武州弓道大会

平成27年11月23日(日)、所沢市民武道館において、恒例の「熊野神社弓祭・第48回武州弓道大会」が開催されました。

天気予報通り、どんよりとした重い雲が広がり今にも降り出しそうで肌寒い朝7時半、大会役員を務める有志20名が大会の盛況と無事を祈願して熊野神社神前にてお祓いをして頂き、当連盟主催の最大の大会会場へと向かいました。

8時開館の武道館では早くもちらほらと来客の姿が見受けられ、9時開会式の頃には、堰を切ったように、埼玉県内は云うに及ばず、神奈川県、東京都、千葉県、茨城県、群馬県、及び栃木県等各地から武州大会にチャレンジしようというお客さんが受付に並んでおられる状態で、天候を危惧していた関係者の心配を一気に振り払う光景でした。

そして11時締め切りの時には、531名の参加者(その内、選手兼役員の会員75名、役員専任の会員3名、スポ少15名)で、この記録は48回の大会の中でも2番目に多い記録で、1番は昭和55年(35年前)の572名でした。

大会は、新家会長の先導による熊野神社遥拝と国旗拝礼、そして挨拶。

次いで来賓挨拶(来賓は、所沢教育長内藤隆行様の名代でスポーツ振興課長内堀耕介様、市議会議長の名代で市議会議員市民文教委員長石本亮三様、所弓連顧問の並木正芳様)、競技上の注意、矢渡(射手:大会会長・新家透、介添:飯島稔凱・山口正彦)を経て、9時40分、いよいよ531名による予選が開始されました。

予選終了時間 14時25分(所要時間4時間45分) 通過者264名(49.7%)その内4射皆中者30名。(5.6%)

決勝射詰め1回目72名。2回目23名。此れより24センチ的に変更。3回目5名。4回目3名と絞られ、5回目の射詰めで見事、群馬県邑楽(おうら)館林支部所属の前田彩(まえだたくみ)選手が優勝。市長杯のトロフィと竹弓を獲得しました。

当連盟会員の成績は、9位に粕谷吉一選手、23位に飯島稔凱選手が入賞しました。

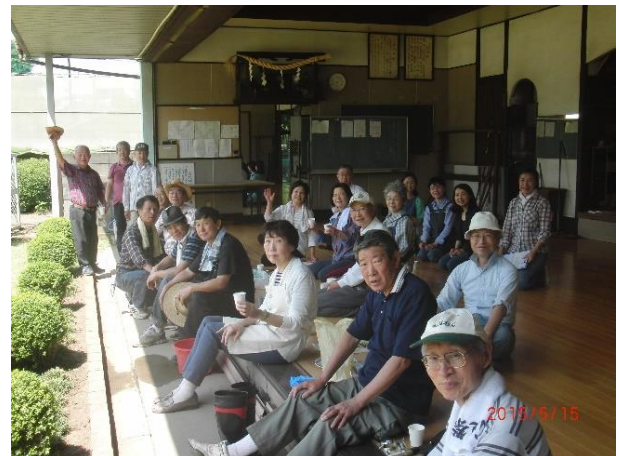
競技終了後直ちに表彰式、閉会式を終え、すべてが終わったのは18時でした。

今年の大会は、昨年より参加者が約100名多く、運行に協力をしてくれた会員各位には早朝より午後6時まで大変ご苦勞をお掛けしました。今後の希望としまして、参加会員の負担を軽減するためにも後プラス10人位の会員参加が有れば有り難いと願って居ります。またスポ少の皆さんも、元気に試合運行に協力をして頂き感謝を申し上げます。

所沢市(熊野神社)弓道場

5月15日

近的場矢道芝刈り遠的場草取り道場清掃



(芝刈り・清掃後のいつも通りの茶会のつもりでした・・・)

7月1日

道場使用終了(7月4日武道館へ引っ越し)。

【指導部】

定期講習会

橋田教室(8月15日で終了しました。草賀先生代行有り難うございました。)

水曜講習会(見原重信先生)(毎月第4水曜日)

土曜講習会(草賀 淳先生)(毎月第2土曜日)

初心者弓道教室

第1回

期間：5月23日～6月27日

毎土曜日 午後1時30分～4時30分 全6回
参加者数 18名 (内10名入会)

7月から8月まで土曜日13時から15時まで
アフターフォローをしました。

なお、最終研修会が10月10日修了生10名の参加者をえて行われ、坐射による演武に各自進歩が見られ指導部の諸先生共々楽しい時間をすごしました。



(1回目入講式 季節に合わせて明るい服装)

第2回

期間：10月24日～12月5日

毎土曜日 午後1時～4時 全6回
参加者数 8名

最終回は、胴着に袴姿で一手坐射の演武をします。



(2回目入講式 日差しが長くなっている)

∞ 投稿 1 ∞

昇段して

熊井紀一

この度、皆様のご親切なご指導と暖かいご声援を戴き、六段に昇段する事ができました。大変有り難く感謝申し上げます。

振り返れば弓道を始めて既に25年の歳月が過ぎ去っていました。始めた当初、年齢も年齢ですので何処まで段位を取れるか、非常に先が長く思いました。

初心者教室を同時に受けた、新家会長と「まずは頑張って教士を受験できるまで頑張ってみよう」と目標を決めました。新家会長は、とっくにその段階に到達してしまいました。

遅くなり大変時間も掛りましたが、何とかその目標に到達することが出来ました。又、先日亡くなられた橋田先生には、「早く教士を受験出来る様に」と言われておりました。先生には遅くなって報告が出来ず、残念ですが何とかこれも目標達成が出来ました。

これら全ては所沢弓道連盟の皆様の良いご指導と、ご声援有つての賜物と感謝しております。有難う御座います。

今後とも変わらず、ご指導、ご鞭撻の程、宜しく
お願い申し上げます。

五段審査の感想

小林孝則

清々しい五月晴れのもと、横浜市港北区の神奈川県立武道館弓道場で五段審査を受けました。天気とはうらはらに、心のなかは緊張と重圧、不安と諦めでまるで梅雨空のようにじめじめとしました。

駐車場が狭いとの情報があり、早めの五時半に出発、関越道、環八、第三京浜港北、順調に進み六時半に到着してしまいました。開門までの二時間半幸いにもじっくりと学科の勉強ができ、公園の散歩、少年野球を見ているうちに少し気分転換ができ出来ることを全力でやる、あとはどうとで

もなれ、という気持ちになりました。

十時十分学科開始、実技は午前中最後の立ちの大前、いつもの審査と同じように緊張の極みしかし、前の日曜日に甲府の審査が予行練習になったのか、すこしだけ余裕があったような気がします。まったくのまぐれ当たりですが、東中を果たしました。

良き先生、先輩方、仲間の方々のおかげで五段になることができました。

これからもよろしく願いいたします。

ありがとうございました。

(五段合格寄稿)

川端由美子

6月14日高崎での審査で五段の認許をいただきました。超人的な忍耐力で指導して下さった松寄昇先生はじめ諸先生方のおかげです。また、ご自分の練習そっちのけで五人立坐射の稽古につきあって下さった皆様にも深く感謝しています。

本当はいろいろ悪い癖を直してから受審すべきでしたが、神社道場取り壊しのお話をうかがって、慣れ親しんだ道場で練習できるうちに挑戦しようと思い立ちました。平成17年に所弓連に入会したので、ちょうど10年通ったことになりました。矢道の緑がきれいで、古い建物も味わいがありました。

大切に管理して下さっていた皆様のおかげで、恵まれた環境で稽古できたのだと思います。(スポ少の子どもたちが「マイケル」・「エリザベス」と名付けてかわいがっていたヤモリたちがどうなってしまうのか、ちょっと心配です)。

五段はまだまだ入口にすぎない、とのお話はよく耳にします。市民武道館で稽古を続けられることに感謝しつつ、次の目標に向かって精進しようと思います。今後ともよろしく願いいたします。

四段審査感想

小島理恵

5月10日、日高市文化体育館弓道場にて四段の合格を頂戴する事が出来ました。これもひとえ

に御指導頂きました諸先生方のお陰です。この場をお借りして、まず御礼を申し上げます。

今回の審査は初めての着物での射で、全く自信がありませんでした。ただ、緊張しやすい性格なので少しでも多くの経験を積む事も稽古の一つと思い、恥を忍んで審査を申し込みました。

しかし、受けると決めた以上後悔のない稽古をしようと思えました。諸先生方に、しつこいまでに教を請い(本当にご迷惑をお掛けしました。)何とか形になるようになった頃、審査の日を迎えました。

当日は朝から緊張していましたが、一緒に行った仲間達のお陰で比較的リラックスして待つ事が出来ました。しかし、いざ実技となると悪い癖である「緊張」で手足が震え始めて来ました。そんな中で自信の無かった襷掛けは奇跡的に上手く出来ました。後は射をしっかりしなくてはと思ったところでトラブルが。前の方がいわゆる「埼玉方式」で引き始めたのです。当然リズムが乱れ、前の方が離れた時に私はまだ弦調べも終わらず緊張を通り越して失神しそうになっていました。結果甲矢は掃矢となり、その瞬間何かが吹っ切れました。「どうせ掃矢は不合格なのだから、乙矢くらいは堂々と納得のいく射をして帰ろう。このままでは悔しすぎる。」そう思ったら不思議と緊張が消えました。

乙矢でやはり前の方は早く退場しましたが、今度は私のペースで丁寧に「悔いの残らない」事だけを考え引く事が出来ました。何とか的中し、清々しい気持ちで退場出来ました。しかし、「掃矢は不合格」と言われていたので合否の発表を待つ間は、帰れるものなら帰りたい気持ちで一杯でした。実際発表を見るつもりも無く、後ろの方で不貞腐れていたのですが「小島さん、合格してますよ！」の声に慌てて見に行った始末です。

今回の合格は諸先生方と、共に稽古に励み、支えてくれた仲間達のお陰です。今後共御指導の程宜しく願い申し上げます。

幸運な三段合格

長谷川昌史

平成27年2月22日、県立武道館で幸運にも三段に合格できました。幸運と感じますのは、前日の練習が絶不調であったからです。受審する他の人達が順調な仕上がりで練習を切り上げる中、私一人だけが矢こぼれはする、全く中りもしないと散々な状態で、これでは帰れないと一人居残りを余儀なくされる状態でした。

当日は、審査前に巻藁練習が出来たのがプラス面に働いたかもしれません。この時も絶不調が尾を引き矢こぼれが止まりません。会長先生が開会のご挨拶で「うまくやろうと思わずに、いつもどおりにやることを心掛けてください。」と、述べられたことを思い出し「ま、参加することに意義あり、いつもどおりにやるしかない。」と腹を括って少し落ち着きを取り戻したように思います。

審査では、いつもどおりに心掛けるよう努めました。1本目、パーンと快音。「あら、中ってしまった。」2本目、「また、中ってしまった。」嬉しい。この幸運を無駄にしないよう、退場では講習で教わった「最後まで気を抜くな！」を思い出していました。

残すは筆記試験、未だ気を抜くことは出来ません。学生時代以来得意?の一夜漬けで覚えたつもりのポイントが思い出せません。時間一杯粘り、普段先生方から教わり頭の片隅に残っていた関連事項を追加しなんとかまとめ薄氷の思いで、かろうじて合格点を頂きました。

先生方、諸先輩に教えて頂きましたことは、実技のみならず、筆記でも大いに役立ちました。今後共、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。大変有難うございました。

参段認許

中根幸二

去る5月1日の日高審査にて参段認許を頂きました。

高校部活での三段認許から42年掛かりましたが、その間の経緯を思いつくまま書かせていただ

きます。

高校卒業後、専門学校時代の夏休み等には母校に顔を出していました。就職してからはそんな余裕は無く弓道とは疎遠になりましたが、数十年後に転機が訪れました。

30年ほど勤めた会社が倒産し再就職先も芳しく無く自然に休日が増え、そんな時に市の広報の弓道初心者教室の文字が目にとまり、暇つぶしに見学に行き声を掛けられたのが弓道再開のきっかけです。

それが平成21年のことでした。再開してみると高校部活の頃が思い出されましたが、何故か審査については内容も場所も全然思い出せません。審査に対する気構えの違いでしょうか。

そして、再開の翌年から審査を2回受けましたが何れもダメでした。日頃、「未だ三段なの?」等もっともなご意見・ご批判を受けながら稽古を重ね三度目の審査にのぞみました。

射技・体配は日頃の稽古の成果が自然に出る様に体で覚えるしかなく、学科は通勤電車の中で教本を読み返そうと決めたものの生来のもの覚えの悪さに加え、加齢により忘れるのも早くおまけに電車の適度な揺れにより5分ほどで睡魔に襲われるなど大変でしたがどうにか乗り越えられました。

改めてお礼申し上げます。諸先生方、弓友たちのおかげで認許を頂きました。ありがとうございました。

(三段合格寄稿)

安立倫生

2015年5月10日の日高市文化体育館での審査で、参段に合格することができました。

諸先生方、所沢弓道連盟の皆様、ありがとうございます。連盟の皆様にも恵まれて、楽しく稽古させていただいたおかげです。

今回が3回目の審査でしたが、前回の審査の反省を生かして、只々、的に向かって引くことに集中しようと思っていました。射法だ、なんだかんだは、稽古で行っているの、的に集中することのみを考えました。あとは、運任せで。

「ただ引くのみ！」

そうは、思っではいるものの、自分の入場までの時間帯が、長くて、そんな長い時間、集中を出来るわけも無く、そわそわと。この時間、嫌ですねえ。はやく、さっさと終わりたい(逃げたい。)

やっと、実技の順番がまわってきて、さあ入場というところで、まったく前の方と足があいません。しかも坐した時には、三的と四的のだ真ん中。

「あちゃー！」

でも、これがよかった。自分で自分を笑える余裕が出来ました。

「しゃーない。的にのみ集中」

とうまく開き直ることができました。

結果は、二本とも中り、満足できる結果でした。引いている最中の記憶はありません。坐した場所がだいぶずれたことを除けば(笑)。

学科は、3回目の受講ですし、今回から課題もあらかじめ発表されていたので、いっぱい作文しました。

今後も、稽古を続けて参りますので、引き続きよろしくお願いいたします。

二段昇段感想

瀧島広子

平成27年2月22日県立武道館審査でお陰さまで二段合格することができました。ご指導いただいた諸先生、先輩の皆様に感謝申し上げます。

私は昨年10月審査を目前にして、左肩を痛めてしまい3か月間練習ができず、整形外科に通っても経過は、はかばかしくなく、気持ちだけが焦り、終いには弓を捨てざるを得なくなるのではと悲痛にくれました。

その間、弓道に詳しい整骨医の話を知り、見原先生には弓は力で引くものではありませんと、お話も伺いました。

今回の経験から「痛みが出やすい射形がある」ことを初めて知り、からだを痛めない引き方、つまり、胸の中筋から開いていく射を身につける大切さに気付かされました。

練習前の準備運動を行い、今後は八節の一つひ

とつの動作をしっかりと習得できるように稽古を重ね、三段を目指して行きたいと思います。

これからも諸先生の厳しいご指導よろしく願い申し上げます。 感謝

2段昇段を迎えて

池内健治

2段昇段、正直に嬉しかったということが、まずもっての感想です。次に、さらに次を目指して努力したいという意欲が湧いたことです。

初段の審査は2月、記録的な豪雪の翌日で、昇段審査が実施できるかどうか、危ぶまれる状態での審査でした。そのような中、上尾駅で所弓連の長谷川さんたちに出会って、一緒に審査会場に向かい、流れのままに審査に向かって、気が付いたら合格したという状況でした。

その1年後、2段の昇段審査の時は、なんとなく射も安定してきて、これなら受かるかもしれないと審査会場に向かいました。審査に先立って、妻と一緒に上尾の武道館で会場を確認し、稽古して、万全の体制で審査を受審したつもりでした。駐車場で所弓連の新家会長と出会ったことも印象的でした。

ところが、審査当日、黒い長袖のアンダーウェアを着ていき、寒々とした会場で道着1枚、書面審査の筆記道具も失念する始末です。立ち位置は2番。絶好の立ち順でしたが、とんでもない事態で終わりました。大前の射手が、射法八節にしたがつて会をしっかりとって、一直線に矢を的のだ真ん中に射止めたのです。ここで、一気にスイッチが入ってしまい、その後のことはほとんど記憶に残っていません。心の中で「よおっし。ぼくもど真ん中を射抜いてやろう」と意気込んでしまい。結果、会が短く、ずってしまい、乙矢でも挽回しようとしたが入ってしまったようです。ほとんど記憶に残っていませんでしたが、本当に良い経験でした。これで、弓道の深さを思い知ることができました。

平成27年5月10日の日高では、思い切って自分の射を試みる事ができました。審査直前、

神社道場の早朝稽古で入場・行射・退場を稽古していたときに、本橋先生からアドバイスをもらいました。「的付けした後は、できることは1つしかない。後ろにある壁を叩き壊すつもりで、思い切り開くことだ。」というものです。先のことを思い悩むことより、直面している射に心を向けることを学びました。

日高では、幸いに2段に昇段することができましたが、長い修行の一段階だと思えます。他の人が自分の射をどう思うか、自分の射を比較ばかりして理想の射に居着くこと、そして何よりの射を抜くことしか頭にない自分、これらを踏破することが大切だと考えるようになりました。先輩諸氏の行射を看取り稽古して自分を磨きたいと考えています。

弓道において、自分の力だけで熟達することは難しいと思えます。一緒に稽古して、互いに自分を高めることで、本当に良い仲間を得ることができたと思えます。これからも、よろしくご指導ください。

拳銃射撃

坂川隆人

この度、二段位を頂きました。ご指導頂いた先生方、先輩方に心より感謝申し上げます。そして、その直後、所弓便編集長から投稿のご指示がありまして、内容は問わないということです。今回は表題のことを書かせて頂きます。

拳銃を扱うのは、自衛官、警察官等の関係者またはその筋の方に限られますので、皆さんの中で経験した方は非常に少ないと思えます。

不肖、元海上自衛官でありまして、現役時代には数年に1回くらいの頻度で射撃訓練を行いました。(小銃等を専門に扱う陸上自衛隊では、はるかに頻繁に訓練をしています。)

私の場合、このように少ない経験でしたが、次に述べる2つのポイントを良く守って、射撃をすれば、拳銃は非常に良く当たるということを実感しました。ちなみに、(うろ覚えですが)射距離は25m程度、標的の黒点(正鵠に相当)の大きさ

は直径10cm程度であったと思います。

さて、拳銃における的中のポイントは次の2点です。

① 引き金は、静かに絞り込んでいくこと。

引き金は、つつい、一気に引きがちです(これを「ガクびき」と称します)。また、射撃では、大きな発射音や強い反動がありますから、ビビッてしまい、早く引き金を引きたいという衝動に駆られて、ますます「ガク引き」の傾向が強くなります。

これは絶対にダメです。

これを行うと、銃口が発射の瞬間に下がりますので、弾丸は的の下方やずっと手前の地上で、むなしく土煙を上げるということになってしまいます。

引き金を引くイメージとして教えられたのは、「暗夜に霜の降るごとく…」というもので、「知らないうちに弾が出た」というのが結果的に良く当たります。弓でいう、「雨露利の離れ」に似ているところがあるような気がします。

② 正しく照準する(的を見つめない)こと。

拳銃等の銃身上部には、照準のための突起がついています。銃口付近のものを「照星」(凸形状)、撃鉄付近のものを「照門」(凹形状)といいます(1図参照)。



(1図)

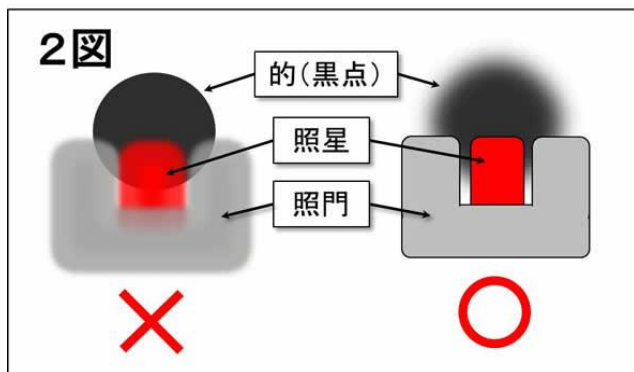
理論上は、「照星」と「照門」を「的(黒点)」に一致させて発射すれば必中する訳ですが、ここに大事なポイントがあります。

それは、目の焦点の当て方です。

「的」は遠方にあり、「照星と照門」は目に近いところにありますから両方同時に焦点を当てるこ

とはできません。従って、どちらか一方に焦点を当てざるを得ないということになりますが、普通はどうしても的を見たくになりますから、的の方に焦点を当ててそちらを見つめてしまいがちです(2図の左図)。

しかし、そうすると「照星と照門」がぼやけてしまいますから、銃身方向性があやふやになってしまいます。極端に言うと、銃身がどの方向を向いているのか分からない状態になる訳です。こうなると、当然に的中の確率は落ちます。



(2図)

一方、2図の右図のように、「照門と照星」に焦点を当て、この2者の位置関係(頭部の高さ揃え、隙間の幅の均等性など)をしっかりと合わせ、「的」はその先に(ぼんやりでも良いので)捉えておきさえすれば、的中の確率は向上します。「的」はぼんやりしていても、銃身はその方向にしっかりと向いているからです。結果、弾痕は黒点付近に集中します。

さて、本件の弓への適用についてですが、①については、考え方において近いものがあると思いますが、②については、教本や関係図書を調べてみても、(私の見た範囲では)この辺の記述をしたものは見当たりませんので、ひょっとしたら弓の場合は違うということかもしれません。どうなのでしょう。

私には今、悩みや疑問が山ほどあるのですが、これもそのひとつになっています。

以上、必中のご参考にして下さい、…と申したいところですが、弓への適用については”的の外れ”かも知れませんが、最悪、話のタネにでもして頂ければ幸いに存じます。

【競技部 (スポーツ少年団含む)】

《所弓連主催射会》

月例射会 (5月16日)

(62名参加 武道館・近的のみ以下同然)

(二段以下)

優勝 杉山博文 2位 杉崎竜也 3位 坂川隆人

(三・四段)

優勝 関口二郎 2位 土井政明 3位 深見恵子

(五段以上)

優勝 粕谷吉一 2位 奥富季乃 3位 三好啓子

月例射会 (6月14日) (61名参加)

(二段以下)

優勝 杉崎竜也 2位 青山千桂 3位 宮嶋重明

(三～四段)

優勝 塩島佳代 2位 小山 等 3位 黒木智哉

(五段以上)

優勝 松寄恭子 2位 熊井紀一 3位 平山夏子

(特別賞)

初参加者 石塚正徳 佐藤孝範

月例射会 (7月12日) (61名参加)

(二段以下)

優勝 石塚正徳 2位 宮嶋重明 3位 豊田琢真

(三・四段)

優勝 中村徳海 2位 黒木智哉 3位 土井政明

(五段以上)

優勝 永田欽一 2位 新家 透 3位 目黒靖彦

月例射会 (8月16日) (57名参加)

(二段以下)

優勝 杉崎竜也 2位 野見山紫穂 3位 松村峰裕

(三・四段)

優勝 廣瀬雅孝 2位 中村徳海 3位 長谷川昌史

(五段以上)

優勝 藤田 良 2位 松寄 昇 3位 粕谷吉一

(特別賞 うちの的中者)

水口 清 細川 博 田中希実 徳丸久美子

第42回所沢市民弓道大会

平成27年9月13日(日)、秋の一日標記弓道大会が所沢市民武道館弓道場において、147名(学生100名 一般47名)の参加を得て盛大に開催されました。

各部優勝者による総合優勝決定戦は、学生の部は上堀温子選手が、一般の部は粕谷吉一選手が見事栄冠を勝ち取りました。

《学生の部》

(小・中学生の部)

優勝 豊田琢真 2位 青山千桂 3位 西澤智美

(高校初級の部)

優勝 鶴沢茉尋 2位 青山恭子 3位 長尾悠可

(高校上級の部)

優勝 上堀温子 2位 吉田万里映 3位 師岡健太

学生の部総合優勝 上堀温子

《一般の部》

(二段以下)

優勝 林 義照 2位 宮嶋重明 3位 森下珠美

(三・四段)

優勝 関口二郎 2位 中村康代 3位 廣瀬雅孝

(五段以上)

優勝 粕谷吉一 2位 増田裕子 3位 松寄恭子

一般の部総合優勝 粕谷吉一

月例射会 (10月3日) (42名参加)

(二段以下)

優勝 坂川隆人 2位 石塚正徳 3位 田中恵美子

(三・四段)

優勝 関口二郎 2位 中村徳海 3位 中村康代

(五段以上)

優勝 三好啓子 2位 熊井紀一 3位 増田裕子

所沢市青少年三道大会 (弓道の部) (11月15日)

(中学生以下24名、高校生101名武道館)

青少年育成所沢市民会議主催の青少年三道大会が行われ、総合開会式は今年も市民体育館で柔道連盟が担当幹事として9時00分から開催されました。

《小・中学生の部団体》

1位 スポ少E 中牧万優 西澤智美 青山千桂

2位 スポ少H 豊田琢真 細沼亮太 吉田空翔

3位 スポ少A 小林実乃梨 稲垣壱琉 伊藤美優

《小・中学生の部個人》

1位 小林実乃梨 2位 細沼亮太 3位 齋藤柗茉

《高校生の部団体》

1位 所沢商B 中川 萌 長尾悠可 武田由麻

2位 所沢商A 榎本あゆ 川本航大 堀田高広

3位 所沢商C 美留町武嗣 師岡健太 岩本麻緒

《高校男子初級の部個人》

1位 高山洋輔 2位 中島直哉 3位 美留町武嗣

《高校女子初級の部個人》

1位 長尾悠可 2位 武藤慧子 3位 榎本あみ

《高校男子上級の部個人》

1位 田澤功輝 2位 師岡健太 3位 工藤康博

《高校女子上級の部個人》

1位 渡邊歩美 2位 天海陽子 3位 武田由麻

《個人総合優勝》

渡邊歩美 (所沢北高)



(緊迫した個人総合優勝決定戦)

第48回武州大会 (11月23日) (参加者531名)

1位 前田 彩^{たくみ} (群馬館林) 2位 望月雄宣 (秩父第1)

3位 森田涼介 (坂戸西高) 4位 小野修平 (川越高校)

5位 新戸和彦 (都江東区) 6位 護守涼太 (坂戸西高)

7位 川越俊彦 (都江東区) 8位 下田逞次 (入間市)

9位 粕谷吉一 (所沢市) 10位 小笹和哉 (無所属)

11位 荻木義幸 (浦和実業) 12位 江波戸優真 (川越高)

13位 村井伶奈 (大正大学) 14位 川北武宏 (都江東区)

- 15位 菊池裕太(蒼藤会) 16位 相原利恵(稲敷市)
 17位 長谷川雅亮(江東区) 18位 須藤 遼(所沢北高)
 19位 山田大介(神大和市) 20位 平野素子(無所属)
 21位 古岡大路(狭山市) 22位 田川博雅(都立川市)
 23位 飯島稔凱(所沢市) 24位 奥野浩次(都江東区)
 25位 矢部梨生(川越初雁)



(前田選手優勝を決めた気合いのこもった残身)

♪～♪～ COFFEE・TIME ♪～♪～

無著・世親 (興福寺北円堂)

春田孝正

奈良、興福寺の北円堂に安置されている

無著・世親の両菩薩立像を初めて見たとき

の感動は未だに忘れることが出来ません。世の中にこれ程素晴らしい彫刻が有るのか、人間が圧倒される様な彫刻作品が有るのかと暫くの間立ち去ることができませんでした。心にしみ渡る思いでした。

此の二体の仏像を拝見した時から、私の仏像探求が始まりました。昭和51年の秋のことです。

無著・世親菩薩立像を模写した近代彫刻の作品が東京国立博物館にあります。これを拝観した時に、あの北円堂の二体の立像から受ける圧倒される様な感動は、私には感じられませんでした。

品格と言うか、何か、何処か違うのです。他の仏像でも、その仏像の前に立った時、瞬間的に胸を打たれる様な感じがすることがあります。なぜだか分かりませんが、やはり彫刻した作者の心意気に違うものがあつたのでしょうか。

この二体は兄弟で、無著が兄、世親が弟です。鎌倉時代初期(1212年頃)に仏師運慶を筆頭に一門を挙げての造像との事です。その後、私が朝日旅行会の仏像巡りの旅に参加して、全国の仏像を見て回るきっかけになったのがこの二体の彫像です。

弓道の教えの中に、射品、射格の向上と云う言葉があります。高段者の射(弓を引きはじめてから終わるまで)を拝見していると、射品、射格の素晴らしい方がおられます。数人の方ですが、見ていて感動させられます。

射場が緊張感で張りつめられます。後に余韻が残ります。

一芸に秀でている方は、極限まで修練されておられるのではないかと拝察しております。何事も修練の極に達することは素晴らしい事だと思っています。自身の至らなさを痛感する次第です。

(所沢市医師会報第362号転載)

《対外競技会》

128回明治神宮奉納遠的大会(5月3日)

参加者5名

5段以上の部 2位 粕谷吉一

入間市近隣親善弓道大会(5月5日)参加39

《個人》

5位 関口二郎 11位 中根幸二 12位 坂川隆人
 15位 藤田 良

《団体》

2位 所沢 M 熊井紀一 中根幸二 海老名玄

ねりんピック予選大会(5月13日) 参加者7名

選考選手 永田欽一 藤原敬一

埼玉県弓道選手権大会等(5月23日24日)

参加者 称号者部:10名、有段者部:9名

《称号者の部》

(関東三県及び全日本出場選手2次選考会候補選手)

男子 本橋民夫 永島英男

女子 嶺美智子

同上2次選考会(5月30日)

全日本選手権出場選手補欠 本橋民夫

関東三県選抜出場選手補欠 嶺美智子

全日本女子弓道大会(東日本の部)(5月31日)

参加者 三段以上の部10名 称号受有者の部9名

三段以上の部 7位 中村康代

埼玉県実年者弓道選手権大会(6月3日)

参加者7名

入賞者なし

埼玉県弓道遠的選手権大会兼全日本遠的選手権大会出場選手選考会(7月11日) 参加者8名

・埼玉県弓道遠的選手権大会

所弓連入賞者なし

・全日本遠的選手権大会出場選手2次選考会

出場者男子 本橋民夫 藤田 良

全日本遠的選手権大会出場選手2次選考会(7月12日)

出場選手 本橋民夫

中部・西部支部親善射会(7月20日)

参加者12名 所弓連入賞者なし

読売杯争奪 兼 県体予選 兼 寿射会(8月2日)

参加者205名(団体66チーム、個人7名)

内所弓連55名

読売杯

優勝 藤田 良 3位 目黒靖彦 6位 竹下 眸

7位 小林孝則 12位 澤田靖子 14位 松寄 昇

寿射会

優勝 藤田 良 3位 竹下 眸

県体選手

(三段以下の部)

中根幸二 関口研二 土井政明

(四・五段の部)

① 藤田 良 水口 清 藤原敬一

② 竹下 眸 小林孝則 竹下正博



(競技の開始)

(女子の部)

① 澤田靖子 土井恵美子 中村康代

② 奥富季乃 徳丸久美子 三好啓子

(称号の部)

目黒靖彦 平山夏子 下田 徹

西部支部選手権大会 兼 県武道大会選手選考会

(9月5日) 参加166名(団体52チーム 個人10名) 内所弓連52名 スポ少9名

西部支部選手権

団体

優勝 藤田 良 水口 清 藤原敬一

3位 飯尾 弘 平山夏子 下田 徹

個人

2位 藤田 良 3位 下田 徹 10位 飯尾 弘

県武道大会選手

男子 藤田 良 下田 徹

補欠 飯尾 弘

女子 補欠 石川淳子

埼玉県勤労者弓道選手権大会 (9月6日)

所弓連3名参加入賞なし

第28回県民総合体育大会 (9月27日)

所弓連6チーム参加

《三段以下の部》

(遠的)

団体 優勝 関口研二 中根幸二 土井政明

個人 3位 土井政明

《四・五段の部》

(近的)

団体 3位 藤田 良 水口 清 藤原敬一

個人 3位 藤田 良

《称号者の部》

(近的)

個人 3位 下田 徹

第39回埼弓連女子部弓道大会 (10月18日)

所弓連 13名参加

四・五段の部 5位 松本裕子

称号者の部 優勝 三好啓子 4位 松寄恭子

知事杯 三好啓子

【スポーツ少年団】

(*スポーツ少年団の記事は、一部重掲、各種射会記録は競技部にも掲載しています。)

平成27年度スポーツ少年団初心者教室

(5月16日～6月20日まで 毎週土曜日)

参加者 16名(中学生5名 小学生10名)

修了者 16名(中学生5名 小学生10名)

平成27年度保護者会総会 (6月29日)

新入団員 12名(中学生3名 小学生9名)

県民総合体育大会 (7月18日)

秩父第一弓道場 16名参加

男女団体、個人とも入賞者なし

全日本少年少女武道錬成大会 (7月20日)

日本武道館

4チームとも予選敗退

市立浦和弓道招待試合 (8月9日)

市立浦和中・高校、浦和実業中・高校、川越高校、松戸市立松戸第六中学と合同練習試合

中学生12名参加

ところざわまつり (10月11日)

参加者20名

第7回所沢市スポーツ少年団弓道交流大会

(10月18日 所沢市民武道館)

参加者 98名

(所沢スポ少23、秩父スポ少40、市立浦和中学19、入間市弓連8、みのり弓和会(三芳)6、上福岡弓連、志木弓連 各1)

入賞者

初心者 的中賞 稲葉 唯花

∞ 投 稿 2 ∞

(初段合格寄稿)

工藤由紀

忘れもしない2015年2月22日、上尾は雪でした。

・・・嘘です(笑)。幸い雪は降りませんでしたが、寒さに震えながら順番を待っていました。

何と初段三度目の挑戦です！一回目は体配の未熟さに負け、二回目は不慣れな大前の人にひきずられ、今回ダメだったら、仲間達や先輩方、何より渡邊先生に何て言おう！と悲壮感が漂っていました。ですが、ここまで来たらあとは後悔なくやるだけ。諸先生方に教えて頂いたことを、ただ忠実に落ち着いて丁寧にやるだけ！そう自分に言い聞かせていました。

射自体は二本ともまずまずの出来でしたが、退場で心配な所があり、ダメだったかな～と午後は生きた心地がしませんでした。ですが無事合格！その嬉しかったこと！早速渡邊先生にお礼の電話をしました。ほっと肩の力が抜けました。諦めないで良かったと思いました。

初段の身でお恥ずかしい限りですが、皆さんも一度や二度の苦難にめげず、やり遂げましょう！「つつしみて怠る(おこたる)なかれ」とは続けることが肝心という尊敬する伊勢の倭姫様のお言葉です。私もこれからも末永く続けていきたいと思えます。

皆様本当にありがとうございました。

弓道を始めて

細川和子

平成27年2月22日県立武道館に於いて初段に合格することができました。ご指導いただきました先生先輩の皆様、本当にありがとうございました。こころより感謝いたします。

審査前日は食事が進まず、緊張していることに気付きました。当日も緊張はそのままでしたが、会場に着くと先輩の皆さんのお顔があり、少しほっとしました。「頑張ってこいよ」と声をかけられ

いざ審査へ・・・・・・・・

乙矢の物見をかえしたところで、審査員の足が目に入り、我にかえりました。その間無我夢中でほとんど覚えていません。あっという間に終わってしまいました。12時半に学科が終わり、3時40分発表までの時間の長かったこと。審査までの緊張感とその後の疲労感、この年になってこんなハラハラドキドキ感を味わうことになるとは、本当に思いもよらない体験でした。

以前から何となく武道の精神に触れてみたいと思っていました。定年を翌年に控えた夫が、弓道はどう？と。それから武道館や熊野神社を何回か見学しました。

「静かな佇まいの中、凜とした姿！」その風景が美しいと感じました。落ち着きのない自分にはたしてできるだろうかと考えながら見学していた時、竹下さん(奥様)から「毎年初心者教室がありますよ」と教えていただきました。そして去年5月31日の初心者教室から弓道場に通う生活が始まりました。道場に入ると無心になれ、弓のこと以外考えなくなります。その時間がたまりません。

所沢の恵まれた環境に感謝しながら、日々稽古を励んでいきたいと思えます。

これからもよろしく願いいたします。

(初段合格寄稿)

石塚正徳

諸先生方を始め多くの皆様のご指導のお陰で、初段審査に合格することができました。平成25年6月初心者教室同期生で審査未経験は自分だけとなり、今回の審査も怖気づいておりましたが、同期生や26年度初心者教室の皆様からの強力(強引?)な勧めもあり、審査初挑戦を決意した次第です。

初めての審査でとても緊張しましたが不思議なことに、それぞれ動作のポイントでは皆様からのアドバイスが頭の中に浮かんできました。矢番えで前の方が苦勞されていた時に「前を追い越してはいけません」、引き分けの時は「しっかり肩入れして」、「会はしっかりね」、「弓倒しの後、顔を正

面に向ける時はゆっくり」等々、不思議と冷静になれました。そして甲矢はまぐれ中り。練習でも滅多に中らない自分は、「パーン」という音にホッとすどころか、頭の中が真っ白になってしまいました。そこから緊張で身体がガチガチになってしまい、跪坐をして立てた弓が震えているのが自分でもわかりました。矢番えも手が震えて手間取ってしまい、頭の中では「ズリ矢幕射ちしたらどうしよう」という言葉がグルグル回っていました。ただ不思議なことに足踏み、胴造り、そして打起しの時には身体のガチガチ感はなくなり、乙矢も安土に届きました。そこでまた頭の中に声が。「最後まで気を緩めないように」と。

練習の時に皆様から頂戴するアドバイスは、自分にとって大きな力になっていることを実感しました。

また、会場まで応援に駆けつけていただいた皆様、ありがとうございました。これからもご指導のほど、何卒よろしく願いいたします。

審査を終えて

山下恵美

私が弓道を始めたのは、2014年の10月の初心者講習会からでした。

以前から弓道をやってみたいと思っていたので、引越を機に思いきって神社の道場に見学に行ったのが始まりでした。それから徐々にいろいろなことを学ばせていただき、先生方の薦めもあり、今年の5月の審査を受けることとなりました。

最初の頃は、まだ初めて弓を触ってから半年くらいしか経っていないのに、審査なんか受けても良いのかな、という中途半端な気持ちだったのですが、当日が迫ってくるにつれて現実感が増し、緊張感も出てきたような気がします。

当日は、もともと上がりやすいこともあり、裏で待機している時の独特の空気に緊張がピークに達していました。実際に的前に立ってからも手の震えがおさまらず、目の前で羽が震えていたのだけはよく憶えています。それ以外はほとんど憶えていないくらいに緊張していました。手順も一

つ間違えたような気がします。すぐに修正しましたが、「もうだめだ・・・」と思っていました。

結果としては何とか合格でしたが、審査会場の雰囲気完全に飲まれてしまっていたので、まだまだ修行が足りないと思いました。

今後はますます練習に励んで、次回の審査の際は少しでも堂々と引けるように、精進したいと思います。

弓道をはじめて

半田惣一郎

2015年5月10日の日高にて初段位の認許を頂くことが出来ました。今回が初の審査で大変緊張しましたが、とにかく先生方に教えていただいたことを丁寧にやろうと思い集中することと、日ごろから凄いい先生方に御指導いただいているのだから大丈夫、と自信を持つことで本番は何とかそれなりに落ち着いてやれたのではと思います。

弓道を初めて1年程たちますが、もともと弓道を始めようと思ったきっかけは、ヘリゲル氏の『日本の弓術』という本を読んだことでした。本来武器として対象を射抜くという行為が中心であるはずの弓矢が精神的修練になり得るまで文化的発展を遂げていることや、射技に対しての師弟のやりとりに感激しました。

自身でもこのようなことの片鱗が少しでも体験出来たらと思い2014年夏に初心者講習に参加させて頂きました。身心弓全てにおいて初心者にはもったいないほど懇切丁寧に御指導頂き、納得しながら練習に取り組むことが出来ました。しかし、納得したからといってすぐにそれらのことが出来るようになるわけではなく今後も正しい型に向かっていく努力を忘れないように練習に励みたいところです。

まだまだ分からないことばかりで何かを具体的に言葉にするには至りませんが、真摯に向き合い

一生取り組めるであろう弓道の魅力を深めていくことが出来ればと思っております。

初段審査を受けて

石毛克恵

平成27年5月10日の日高の審査で、初段を頂くことができました。平成26年10月の初心者教室で初めて弓矢を持ってから、たくさんの先生、先輩方にご指導をいただきまして本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

初心者教室は週に1回の為、せっかく覚えたことも一週間するとすっかり忘れてしまい、不安のまま、教室は終了してしまいました。その後は道場に通うのも勇気がいり、最初の頃は、渡邊先生に巻き藁を見て頂こうと、緊張のあまり「先生、まきわりを見ていただきたいのですが・・・」と言ってしまい、目黒先生に「木こりか!」と突っ込まれ、大変恥ずかしい思いをいたしました。

こんな私に先生、先輩方はいつも気さくに声をかけて下さり、たくさんのご指導をいただきました。初心者教室の時にいただいた教科書は書き込みでいっぱいになり、道場で過ごす時間が本当に日々の楽しみになってきました。

審査当日、20番で落でした。これまで学んだことを思い出しながら、落ち着いて臨もうと思っ
て入場しました。すると私の前の4番の方が甲矢を落としてしまい、あわてた様子で矢の処理をしました。弓構えの動作のまま待っている時間が本当に長く感じられました。打起し、大三では顔向けが変わらないように注意し、矢内先生の「そのまま、そのままだぞ」という声が聞こえるような気がいたしました。でもやはり緊張して、弓倒しや退場の際のミスもあり、がっかりしておりました。終了後、先生、先輩方からは、「落ち着いていたよ、良く待ったね。」と声を掛けて頂きました。合格をいただけたのは、本当に運が良かったと思います。

「意識のない稽古はない」と見原先生の教室でも教えていただいています。同じ目標をもった仲間がいてくれたことも大いに励みになりましたし、

これからも常に目標を持って、精進したいと思います。

初段審査を受審して

宮本幸世

5月の地方審査(日高)にて初段の免状をいただきました。初段は「矢が安土に届くこと(掃き矢・幕打ち厳禁)」「体配が概ね出来ること(特に入退場)」の2点がポイントだそうですが、審査1週間前あたりから幕打ち・筈こぼれを頻繁にするようになり、考えるのは矢の処理ばかり。「失したら落ちるでしょ?」とわかっていても考えてしまうのです。射が改善しないまま当日を迎えました。

低段ということで、開会式後すぐに行射審査です。受審番号は15番オチ…大前ばかりやっていたからほとんど練習していません。繰り上がらないかな。20分前には控に移動した方が良いと教えていただいたのですが、射場入口を間違えウロウロ。この時点でかなり動揺していました。控に着いたのは集合時間ギリギリです。控から射場が見えませんし。5歩3歩でいいのかしら?わからないまま順番が来ました。実技はもうあまり覚えていません。とにかく楽に大きく!と心がけました。なんとか2本とも安土に届き合格出来ました。

日頃より先生方には懇切丁寧にご指導いただき、精神面でも励ましていただきました。先輩方にもたくさんの情報を提供していただきました。この情報があるのと無いのではだいぶ違いました。ありがとうございます。

弓の道はまだまだ始まったばかりです。甘いと言われてしまうかもしれませんが、長く続けられるようマイペースで行きたいと思えます。

(初段合格寄稿)

奥村紘美

6月21日の大宮審査にて初段の認許を頂きました。

昨年の2月にやっと弓道を始めることができ、かれこれ1年数ヶ月が経ちました。やっとと言いますのは、中学生のころから弓道のかっこよさに

ずっと憧れを抱いていたからです。とは言えスポーツ少年団の存在も知りませんでしたし、学校の部活以外で弓道を習えるところはないものか、と広報に載っていた弓道の教室に行こうとしたこともあったのですが、中学生では危ないからと断られてしまい(今思えば初心者教室?)、高校は弓道部がなく、大学は初心者では入部できなさそうな雰囲気が漂っており、なかなかいい機会に巡り会えないまま時が過ぎていきました。

社会人になり、毎日の通勤にぐったりしていた日々でしたが、弓道への憧れは頭の片隅に残り続けていました。そんなある日仕事で外出した際、今回の大宮会場の横を通ることがあり、弓を引いている方々を見かけたことがありました。思えばあれが引き金になったのかもしれませんが。

所沢で弓道が出来るところをネットで検索し、そうして見つけた神社道場にいきなり見学に伺ったのが去年の1月のことでした。初心者教室はまだ先だからと個人的に教えていただけることになり、憧れの弓道をやっと始めることができました。

当初は、「のんびり続けられればいいな」くらいのつもりだったのですが、せめて初段は取らないとという話になり、大変緊張しましたが今回2度目の挑戦で無事に初段の認許をいただきました。合格はしましたが、前回と同じ失敗をしてしまったこともあり、日々の練習不足を痛感いたしました。多くとも週1回しか練習には行けないのですが、徐々にレベルアップしていきたいです。今後ともご指導よろしく願いいたします。

地道にこつこつ

今井千鶴

平成27年6月21日、大宮審査にて初段に合格する事ができました。昨年(26年)の11月「初心者教室」を終了し、神社道場での弓道がスタートしました。体配はもちろん、神社での作法も一から学んでいく事だらけでした。何度も繰り返し優しく熱心にご指導いただいた先生、諸先輩方のご指導心より感謝いたします。

私は、子供が幼稚園入園し1人になった午前中、リフレッシュしたいと思い弓道を始めました。4ヶ月が過ぎた頃、「審査を受けなさい」と声がかかり、はじめは「審査なんて無理です」とのらりくらりかわしていましたが、審査を受けると決心してからは、週2~3回午前中に弓道場に通う生活が始まり、次第に夢にまで弓道の事を考えるようになりました。

弓道を始めて6ヶ月、ついに審査当日を迎えました。当日は、10番目で「落」でした。開会式後すぐ自分の順番が来てしまい、緊張を抑える事が出来ないまま審査が始まりました。前の方を抜かしてしまいそうになり、おどおどしてしまい、スムーズな運びができませんでした。私は不合格だなど、一瞬頭をよぎりました。せめて練習してきたように、「大きく引いて大きく開く」「会4秒キープ残身4秒キープ」は、しっかりやろうと思い直しました。2射とも4秒数え、大きく開く事が出来ました。しかし、退場時、揖をし出口に向かって振り返った瞬間、退場ラインが全く分からず頭が真っ白になり、何歩で出たのか覚えていません。

不合格だなど思っていた所、自分の名前の横に「合格」の印があるのが見えた時は、嬉しくて手が震えました。地道にこつこつ頑張った良かったと思いました。

今は、「育児」「家事」「弓道」の忙しくも充実した新たな生活スタイルを毎日楽しんでます。

∞ 会長月誌 (抄) ∞

平成27年4月12日

熊野神社春期例大祭

・不参加、但しお祝い金を届けた

4月16日

市体育協会三役員

・27年度評議員会について

4月22日

埼玉県知事宛の事業報告書等の提出
所沢県税事務所への法人県民税減免申請
所沢市への法人市民税減免申請

4月25日

埼弓連評議委員会 (新役員)

- ・会 長 本橋民夫
- 副会長 飯島千代子 (指導委員長)
- 浅野有三 (理事長)
- 岡芹喜行 (競技委員長)
- 瀧上三郎 (国体強化委員長)
- 常任理事 浅野光子 (総務委員長)
- 古泉利昭 (審査委員長)
- 鷹巣光子 (女子部部长)
- 廣松 弘 (会計)
- 松本信一郎 (会計)

監 事 岡田義助
綾戸岩雄

5月 9日

県連理事会

- ・平成27・28年度役員、専門委員会委員、
顧問・参与の発表

5月24日

県連総務委員会

- ・業務用会員名簿の発行

市体育協会理事会

- ・27年度評議員会について
- ・役員改選案

6月 4日

スポーツ振興課打合せ

- ・道場の建て替え

6月10日

市、宮司、氏子会、弓道連盟の会合

- ・市は跡地を更地にして熊野神社に返還する

6月14日

NPO法人所沢市弓道連盟理事会 (兼部長会)
・経過説明 (弓道場を建設する場所は現在の場
所に拘泥しない事を確認)

6月16日

市に理事会議事結果を報告

6月19日

齋藤体協会長に経過報告

6月27日

スポーツ振興課からの氏子会への説明会に同席
・6月10日会合の内容と同じ

6月28日

市弓道場備品整理

- ・武道館指定管理者宛寄贈、保管・使用物リス
ト作成

6月29日

スポーツ振興課に引渡し

- ・玄鍵番号、近的矢取道鍵、遠的矢取道鍵

6月30日

宮司に神棚お祓い依頼

氏子会に会費支払い

7月13日

シティマラソン大会第1回実行委員会

7月21日

体育協会役員会

8月24日

青少年三道大会打ち合わせ

- ・今年度柔道連盟が主幹事

8月28日

体育協会理事会

- ・専門委員会役員について

- ・27年度事業について

9月 4日

シティマラソン大会第1回総務委員会 (別件用
務のため欠席)

∞ 編集後記 ∞

「熊楠の 死守せし杜よ 霧深し」

表題の俳句は、昨年(2015年)の12月1日の読売俳壇矢島渚男選に最秀句として撰された埼玉県川越市の男性が吟じた一句である。

その句の評にはこの様に書かれている「南方熊楠^{みなかたくまぐす}は明治の生んだ植物学から民俗学にわたる大学者。彼は明治政府の神社合祀令に猛然と反対し植物の宝庫でもある神社の杜を守った。その鬱蒼^{うっそう}たる杜を前に立った。」とある。

この心惹かれる句に思うのは、「鬱蒼たる杜」は「霧深し」であろうと思われること、そして反対に「疎らな杜」ならば「霧浅し」だろうと想像できること。この句が選者によって最秀句として撰された理由は確然としないが、「死守せし鬱蒼たる杜」とその対の「霧深し」を様々なものに例え言い換えることが出来る、それも理由の一つではないかと考えている。

明治神宮の杜は、人工林といえども生態系豊かな「鬱蒼たる杜」の名に相応しい林様を誇りその中に至誠館道場がある。

熊野神社の市営弓道場が今日の所沢市弓道連盟の礎を築いたことに異論を唱える人は皆無であろう。このことによって熊野神社の鎮守の杜もまた「鬱蒼たる杜」の名に恥じない。

弓道連盟は、この鎮守の杜と神社道場によって今日の所弓連の隆盛を保てたことを銘記し、自ら南方熊楠となる覚悟をもって曠野に植林し、育林し新たな「鬱蒼たる杜」を造るための努力を惜しまない決意を新たにしたい。

編集委員

飯島稔凱 甲斐久歳 小林康則

山口正彦 山口ひろ子

所沢市弓道連盟会報誌 所弓便 第16号

発行日 平成27年11月30日

発行者 NPO 法人 所沢市弓道連盟

会長 新家 透